

同志社で学ぶということ

奨励	八田 英二〔はった・えいじ〕
奨励者紹介	同志社大学経済学部教授
研究テーマ	産業組織分析

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」

(ヨハネによる福音書 14章6節)

今出川と京田辺

経済学部は八田です。私は毎年チャペル・アワーでお話をさせていただいております。ただ過去、15年間は京田辺か、今出川ではクラーク・チャペルでお話しておりまして、神学館礼拝堂では初めてとなります。前に一度、同志社礼拝堂でお話をした時は、あれは福知山線の脱線事故の後で、追悼礼拝の時でした。もっとも京田辺にはチャペルがありませんので、教室を改造したところでお話をさせていただきました。

今から何年ぐらいたったか、定かではありませんが、京田辺のチャペル・アワーの時に、京田辺にもチャペルが建てられ、そこでこのような礼拝が行われたり、いろいろな集会ができればいいという希望を述べさせていただきました。そうなることを希望すると言われた方がいましたが、ようやく現実になりました。チャペルを京田辺に建てるということが決定され、デザインもできております。あと数年すれば京田辺のチャペルでも、このようなチャペル・アワーをもてるようになります。これは確かなことですから今から楽しみにしております。京田辺にはチャペルがありませんでしたので、チャペル・アワーと言っても何か少し雰囲気違っております。そういう面では、正式のチャペルでお話ができるというのも感慨深いものがあります。聖歌隊員の数も増えていきますので非常に喜ばしい限りです。

今出川にはチャペルが三つございます。同志社礼拝堂、神学館礼拝堂、そしてクラーク・チャペルです。現役の学生の方は三つのチャペルは前からあるのではないかと考えておられたかも知れません。実をいうと、クラーク記念館のクラーク・チャペルは私どもが学生の時は教室として使われておりまして、数年前に改修をした時に元々のチャペルの形になりました。大学の中には今、チャペルが、今出川に三つ、京田辺にあと数年すると一つで、合計四つになります。やはり同志社は、キリスト教とは切っても切り離すことができず、チャペルはその象徴的な存在です。同志社といえばキリスト教、同志社といえばチャペル、そして同志社といえば新島義。皆さんはNHKの大河ドラマ「八重の桜」を見ておられるかもしれませんが、キリスト教・チャペル・創立者は同志社にとって忘れられない、あるいはなくてはならない存在だと思います。

大学教育と同志社教育

話は変わりますが、来年4月に新しい大学が五つ生まれることになっております。昨年だったでしょうか、前の文部科学大臣が「大学は、あまりにも簡単にできすぎるのではないか」ということで「認めないわよ」と非常に威勢のいい宣言をされた方がおられました。あの影響で大学を創るときはもっと厳しく審査をしようということになりました。私は今、その審査にかかわっておりますけれども、その大多数は保健・医療系です。看護学部とか、あるいは理学療法士とか、職業に直結するような免許・資格を出すような大学が来年もできあがることになっています。

最近までは、そのような保健・医療系や看護、そして小学校の先生の免許を授与する教員養成系学部、あるいは大学を創るという申請が多かったようです。しかし、「子ども学部」というような名前を冠した学部の設置申請が少なくなりました。団塊の世代が小学校の先生を定年退職する時期が数年間続きまして、小学校の先生を新たにしかも大量に雇用する必要が生じ、小学校の先生を養成するという学部がどんどん設置されてきました。そのブームがほぼ終わりにかけて、「子ども学部」を設置するという熱は冷めたようです。それに代わって今、人手不足の解消という意味では、どんどん増えつつあるのは看護系の大学や学部です。卒業してすぐ職業に直結するという大学、あるいは学部がこれからも増えていく時期にさしかかっております。

同志社大学のなかを見渡していただいて、「この学部を卒業したら、就職とか資格に結びついている学部」というのは、それほど多くはありません。比較的、理系の学部がそうかもしれませんが。それ以外にも、いくつかの学部があるかもしれません。しかし一般教育あるいは教養的な科目が重点的に配置され、そして基礎的な専門知識を得て卒業する、そういう学部が多数です。今、ここには同志社の学生の方が多いと思われます。皆さんが大学に入られる時は、何を考えられましたか。資格を考えられたでしょうか。たぶん、就職については考えられたかもしれませんが。同志社に入って、こういう専門科目を勉強して、こういう職業に就きたいから学部を選んだ、あるいは学科を選んだという方が大多数だと思います。

私も経済学部の学生を対象にゼミナールをもってまして、2、3、4年生にそれぞれ20名ずつぐらいです。「なぜ同志社を選びましたか、経済学部を選ばれましたか」と質問すると、推薦入学以外の方は「どこどこの大学を落ちたから同志社に来ました」という方が、かなりおられます。「同志社大学の経済学部のほかに、どこを受けましたか」という問いには「某国立大学経済学部を受けましたが落ちまして来ました」というところが比較的多いようです。かつ「仮面浪人」という言葉もありました。まず最初は同志社に入って、1年間少し勉強して、他の大学を受ける。そこでダメだったら同志社を続ける、といった方がかなりあります。

強い目的意識をもって同志社に来たという方は比較的少ないのかもしれませんが。教師にとっても多少残念な気がしております。皆さんも入ってこられた時は、おそらく、他大学を受けて入学できなかったから同志社に来たという方がおられるでしょう。特に1年生の方は「落ちたから来た」という意識を強くもっているかもしれません。ただ4年後には、「同志社でよかった」と言って、卒業していかれることになると思います。これは、教師にとって大きな喜びを感じるときなのです。

教師にとって嬉しいことがいくつかあります。一番嬉しいことは何か。皆さん、それは何だと思われますか。私は、よく卒業生の会に招かれるのですが、卒業生がよく言われるのは「自分が受けたあの4年間の同志社教育を、子どもに受けさせてやりたい。だから同志社に入りたい」という要望です。これは私も教師にとって一番嬉しいことです。大学時代の4年間の教育が大切だからこそ、同志社教育を子どもに受けさせたいと言ってくれる卒業生が沢山おられるのです。ただ「先生、入るのが難しいですから、何とかならないでしょうか」と言われるのですけれども、「それだけはどうにもできない」と答えざるをえません。自分が受けた教育、同志社教育を子どもに受けさせてやりたいと言われる卒業生の存在は同志社教育への最高の評価です。これは同志社の教師にとって誇りとすべきことだと思います。

私のゼミナールでも学生としゃべっていると「父や母が同志社」とか「おじいさん、おばあさんが同志社です」という話題もです。「だから、同志社に来ました」と言われる。教師として一番大きな喜びを感じる瞬間です。皆さんは、どうでしょうか。あるいは身の周りに同志社教育を受けられた方がいらっしやるでしょうか。

同志社教育という語を聞かれるときに、皆さんは、どのように考えられるでしょうか。同志社教育とは何でしょうか。よく大学は知の殿堂と言われます。知識の知ですが、知を創造したり、生産したり、伝達したり、それを継承する、その場所が大学だと言われます。「知」というと、皆さんは何を思い浮かべられますでしょうか。大学で「知」という場合は、二つの「知」があると思います。一つは知識の「知」、knowledgeです。大学は、それぞれの学部が、専門教育あるいは一般教育科目で知識を皆さんに伝達するということをやっています。私は経済学部の教員ですから、「経済学」の専門知識を皆さんにお教えしております。講義ではミクロ経済学とか、あるいは統計学を教えておりますから、この分野の専門知識を皆さんにお教えし、伝達しているわけです。研究面においては、知識を新しく創造するということもやっております。皆さんは大学に入ってからこれの前は、大学は「知識を伝える場所である」、「専門科目を教える場所である」とか「大学で専門科目を身に付ける」と考えていたことでしょうか。自分たちが大学に入って知識を身に付けることが目的であると大多数の人は考えられたかもしれません。その知識を得て専門職に就いたり、その知識でもって就職先を見つけ、将来高収入を得たいと思われた方があったかもしれません。

確かに知識を学生に教授する、伝達するということは、大学にとって一つの大きな社会的な使命だということがわかります。しかし実をいうと、もう一つ大切な大学にとっての使命があります。それは何かというと「知恵」の教授だと思えます。つまり、大学における「知」の二つ目は「知恵」だと思えます。大学でそのように得た知識を、どのように自分の人生に生かすのか。人類のために生かすのか、社会の幸福のために生かすのか。その知恵の獲得が知識以上に大事だと考えております。知識だけあって知恵がなければ、その知識を使う人、活用する人、運用する人によって社会に不幸をもたらすことがあるかもしれません。この知恵の部分をお教える、あるいは教えるという少し語弊があるかもしれませんが、身につけていただくこと、これも大学にとって非常に大きな使命だと考えます。もう少し正式な言葉で言えば、「人格形成や人間性を涵かんよう養する」、これも大学にとって大きな社会的使命だと考えております。

同志社とキリスト教

学生の皆さんに人格形成をしてもらおう、知恵を得てもらおうと思えば、大学がどのようなPrincipalに従って皆さん方に知恵を身につけていただく手助けをするのか、これは非常に大事なことです。同志社は、キリスト教主義精神に基づいて皆さん方の人格形成に寄与したいと考えております。

これを一番よく表しているのが「建学の精神」です。同志社の建学の精神は「良心教育」と言われております。「良心を手腕に運用する」人物の育成を目指しています。つまり、皆さんが専門知識を利用する場合、社会にそれを使って貢献していく場合、同志社はキリスト教主義的な考え方ですそれを使っていただきたいのです。これが同志社教育の特徴ではないかと考えております。キリスト教主義に基づく人格形成、これが同志社の建学の精神の核であると考えております。

建学の精神をもっているのは私学だけです。国立大学に建学の精神はありません。彼らは、社会的に有用な人物を育成する、専門人を養成する、これが普通の国立大学の設立の目的となっております。私学のみが建学の精神を世に問うて、学生を受け入れ、その建学の精神に基づいて教育を行っております。国立にはそれがありませんし、公立にもありません。それが私は国公立と私学の大きな違いではないかと思っております。同志社はそのような建学の精神の基礎にキリスト教をおいておりますが、これは新島先生の大学についての考え方がらきております。

皆さん方は同志社の学生です。同志社に来られた限り、専門知識を身につけるのは当然かもしれません。もう一つの大きな同志社の特徴であるキリスト教主義に従って、同志社は若人、青年の教育に関与しているということをぜひとも心に留めて、授業に出たり、本を読んだり、友だちと交流をしたり、サークル活動に積極的に励んでいただきたいと思います。人格形成というのは授業に出るだけでできることではありません。どこに住んだのか、誰と付き合ったのか、どんな本を読んだのか、さらには、どのような下宿で、どのような周りの人びと、地域の人びとと交流したのか。4年間の学生生活24時間、四六時中、すべての営みが人格形成に寄与するものではないか、私はそのように考えております。

同志社はキリスト教主義ですから、このようなチャペル・アワーが行われています。これも人格形成の一環に寄与していると考えております。同志社には、そのようなチャンスがいろいろあります。

同志社人として

話は変わりますが、同志社の各キャンパス以外の場所で「同志社」あるいは「新島襄」というようなモニュメントがある場所をご存じでしょうか。一つは新島襄の生まれた地にモニュメントがあります。それはどこでしょうか。新島襄が生まれたのは2月12日ですが、生まれた場所は現在の神田の学士会館でした。そこには「新島襄 生誕の地」というモニュメントがあります。函館にも「新島襄 脱国の地」という大きなモニュメントがあります。また、同志社の教育にとって大きな影響を与えた一団として「熊本バンド」が有名ですが、熊本の花岡山の上にそのモニュメントがあります。そして新島襄が天国に召された地、大磯の「百足屋」という旅館のあった場所にも、モニュメントがあります。皆さん、函館に行ったり、花岡山に行ったり、あるいは大磯に行ったり、学士会館の前に行ったり、折にふれて、同志社のモニュメントを訪ねてください。キリスト教文化センターや、学生支援センターでは同志社ゆかりの地を訪ねる行事を企画しています。ただ、行っただけでは人格形成ができるわけではありません。キリスト教に基づく人格形成、あるいはその元になった新島襄が精神的にどのような足跡をたどったのかを知っていただきたいと思います。それがまた同志社教育を知ることにつながると私は考えております。

先ほど言いましたように、同志社大学生である4年間すべての生活が人格形成に寄与しております。そのような同志社大学生が今、2万人、今出川に通っております。この2万人が集い、生成する学生のエネルギーが、同志社の学生文化をこの地に新しく作り出すのではないかと期待をしております。同じことは京田辺に集う学生にも言えると思います。ただ、この4年間、京田辺の6学部と今出川の8学部の学生は、なかなか交流する機会がありません。それぞれの学生は専門知識を得るわけですが、もちろん中味は当然違っております。ただ人格形成の部分、知恵の部分は同志社の学生である限り京田辺で学ぼうと、ここ今出川で学ぼうと、変わるところはありません。キリスト教主義に基づく、そして新島襄が夢見た人格形成は、私は同一であろうと思います。

一般教育科目で「同志社科目」というものもあります。また積極的にクラブ活動、サークル活動に入って京田辺の学生とも交流する。できれば京田辺の授業もとる。体育の実技科目も向こうに行く。逆に京田辺の学生も今出川キャンパスの授業をとる。こういう交流があっても、私は当然だろうと考えております。それがまた同志社の学生というアイデンティティーというものを形成するのだと思います。同志社大学の学生である限り、同志社のキリスト教主義に基づく良心教育を受けられるわけです。キャンパスは違えども、根っこは同じだということを念頭において、4年間を過ごしていただきたいと思います。そして4年後には「同志社教育を受けてよかった。このような教育を、多くの人びとに受けていただきたい」、そう思うような人物に育っていただきたいと思いますと考えております。良心教育という同志社の建学の精神がある。これは私学の強みであり、同志社の強みだと考えております。キリスト教主義に基づく良心教育、新島襄が理想とした良心教育を、私ども教職員一同、それに向かって邁進しております。ただ、皆さん方を無理矢理に「どうしろ、こうしろ」、あるいは、授業に出て良心教育の一端に触れろと強制しても、良心教育が成就するはずがありません。皆さんが同志社の学生としての自覚で、ぜひとも同志社の色に染まっていただきたい、私はそのように考えております。同志社は、「自治、自立、自由主義」を高く掲げております。よく考えながらこの4年間あるいは2年生の人はあと3年間、3年生は2年間、4年生はあと1年間、思う存分同志社の空気を吸っていただき、同志社人として社会に巣立っていただきたい。これが私の望みです。

時間があれば京田辺キャンパスにも行っていただき、向こうのチャペル・アワーにも出席する、あるいは、京田辺の学生も今出川に来てチャペル・アワーに出席するということもあってもいいのではないかと、そのように考えております。皆さんの有意義な学生生活をお祈りいたしまして、私の話とさせていただきます。ありがとうございました。

2013年5月28日 同志社スピリット・ウィーク春学期
今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録